

平成26年度JAXA業務実績評価に関する総務省国立研究開発法人審議会の意見書概要

総括

- 本審議会(JAXA部会)として、JAXA内部評価※に異論なし。

※JAXA内部評価は全29項目。S評価が1項目(リモセン衛星)、A評価が5項目(宇宙輸送、外交安全、環境安全、人材育成、情報開示)、それ以外はすべてB評価。

- 今後のJAXA研究開発等のあり方について、主に以下のコメントあり。

主な意見

- リモセン衛星(S評価): ALOS-2でのGaN増幅器開発による観測性能向上等の研究成果や、リモートセンシング衛星データの実利用進展は、計画を上回る良好な成果。一方、ALOS-2は、2014年度の評価段階では打ち上げから1年も経過しておらず、より長期的視点から実利用に関する評価を実施すべき。
- 宇宙輸送システム(A評価): 我が国が高い打ち上げ成功率やオンタイム率を達成したことは成果。次期基幹ロケットの開発や固体ロケットの高度化という新しい取り組みのほかに定常の打ち上げもあり、工程管理もしっかりと行うべき。
- プロジェクト管理(B評価): HIIA/Bの単年度5基打ち上げや、年度下期6か月に基幹ロケットの打ち上げが4回集中したが適切なプロジェクト管理や様々な調整を図り無事打ち上げを成功させた点が評価。今後は、商業打ち上げ市場参入などの産業振興面からの調整・実施能力に期待。
- 組織運営(B評価): 平成26年度に大規模な組織改革を行ったことは評価できるが、効果の見極めは次年度以降。今後、組織改革の方向性がJAXA内部に浸透し、改革の成果が着実に得られたか、今後も継続的に改革の効果を検証すべき。